

折尾駅南の区画整理事業

一部住民、なお反発

北九州 キタキウ の行方 2011市長選

「突然の説明」「なぜ減歩」

JR折尾駅南側（八幡西区）の折尾土地区画整理事業は、地元で「反対」を抱えながら進んでいる。一部住民の反発と不信感は根強く、容易に解消されそうにない。2008年度に始まった事業は22年度に完了予定だが、先行きは不透明だ。（坂本康浩）



区画整理の計画地には、「反対」の看板が立つ—北九州市八幡西区東筑1丁目

「住民無視の区画整理反対」「森ルナ 壊すな 殺すな」……計画地にはこうした看板が目につく。反対住民でつくる折尾区画整理権利者の会（125人）が、計画が浮上した01年に立てた。一帯は家屋が軒を連ね、狭い路地が入り組む。区画整理では新しく大小の道路を設ける計画だ。会は見直しを求めたが、市議会への陳情は不採択となり、市は04年、区画整理を都市計画決定した。

佐藤潤男代表は「計画は住民に知らされないまま持ち上がった。（道路や公園などに地権者が用地を一部提供する）減歩があると言われたが、何のことも分らないか」と振り返る。「鉄道の高架化には反対ではないが、

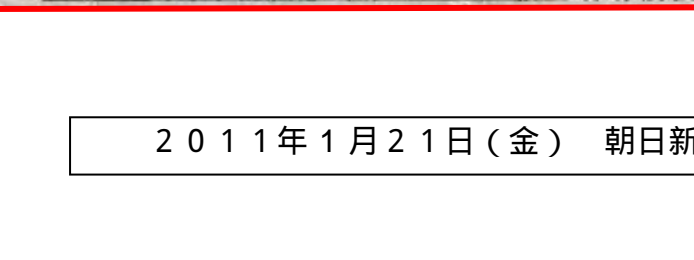
折尾土地区画整理事業
JR折尾駅南側の16・9丁が対象。施行期間は2008～22年度。駅に乗り入れる鹿児島線、筑豊線、短絡線の高架化と駅ホームの一体化、筑豊線と短絡線の西側への一部移設（連続立体交差事業）。

「住民無視の区画整理反対」は、地元で「反対」を抱えながら進んでいる。一部住民の反発と不信感は根強く、容易に解消されそうにない。2008年度に始まった事業は22年度に完了予定だが、先行きは不透明だ。（坂本康浩）

反対の背景には住民の高齢化もある。区画整理後に土地の評価額が上がると固定資産税が上がる。移転の場合、補償はあっても家屋建築に持ち出しが必要になったら、ローンを組むことができないかどうか。いずれも年金生活の高齢者には深刻な問題だ。

駅北側の道路拡幅や新設（街路事業）を一体で行う。鉄道線路による街並みの分断を解消し、広場や都市計画道路、区画道路、公園3カ所の整備などを目指す。事業費は約198億円。地権者は369人（07年7月現在）。平均減歩率23%。

れんが高架橋
西側全て解体
東側は保存検討
住民団体の「歴史遺産『北九州市レトロ』を創る会」や土木学会土木史研究委員会などが保存活用を求めている。築97年の「旧西鉄れんが造り高架橋」の一部が、今回の区画整理事業により解体された。



れんが造りの高架橋はビルとともに解体され、姿を消した（左）。右奥はJR折尾駅北九州市八幡西区南蔵見町

れ、その上に鉄道線路が敷かれた。大正時代の長大なれんが造りアーチ橋は折尾と東京にしか現存しない。西側6連のうち3連はすでに解体され、残っていた3連も昨秋からの工事で、隣接するビルとともに解体された。跡地は駐車場や一般用のトイレとして当面活用し、将来は駅前広場になる予定。市は東側の3連は保存活用する方向で検討している。

市は昨年末、創る会に「高架橋は劣化し、亀裂や漏水も多く、隣接ビル解体の影響で崩落の危険がある」と解体する理由を文書で伝え、「過去の調査資料とともに文献や設計図を整理、保存するなど功績を後世に伝えたい」と説明した。解体後のれんがで使えるものは、何らかの形で活用したいという。創る会事務局は「何らかの形で残されることは前進」としている。